

景観フォーラム

巻頭言

景観を考察する際に次の二点を取り上げたいと思います。例えば、眼前にある街並みをどのように評価したらいいかを考察する場合、まず、高さ・色形などの具体的な計測の景観工学的観点から始めます。次に、この街並みがどのように出来上がって来たのかという歴史的背景を探求します。この二方向が景観考察の基本的スタイルではないかと思われま

す。さて、この考察方法を用いて、現在問題となっている安倍政権が実施した突然の衆議院解散を紐解いてみましょう。まず、景観工学的観点からすれば、この解散はあまりにも唐突に感ぜられ、説明がつかないように思われます。安倍晋三の特区活用の疑惑隠し等が指摘されますが、それではあまりにも単純すぎます。そのためにも、歴史的探求を用いるほかありません。

安倍晋三の祖父岸信介（1896-1987）から始まります。ご存知のように、1960年岸信介（首相在任1957-1960）は新日米安全保障条約承認により米軍基地日本定着を強化させ、次に伯父の佐藤栄作（1901-1975）（首相在任1964-1972）は現在では虚偽であることが証明された「核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず」のいわゆる非核三原則を提唱して、国民を完全にだましながら自衛隊の軍備強化を推し進めてまいりました。

以上を勘案しますと、今度の解散劇はこの祖父・伯父が用意してきた自衛隊を日本軍として世界に派遣出来るようにする最終局面ではないでしょうか。恐らく、祖父岸信介が戦犯として死刑にはならず、政治活動が復活できたのは米国との親密な関係が前提としてあり、それが佐藤・安倍という具合に引き継がれてきたのではないのでしょうか。日本の民主主義は、残念ながら依然として米国の傀儡民主主義にすぎないことを肝に銘じなければなりません。即ち、今回の解散劇は突然ではなく計画的と言えるでしょう。

NPO法人日本景観フォーラム理事長 齊藤全彦

<日本景観フォーラム2017年度（平成29年度）年間スケジュール>

*2017年度とは2017年4月1日⇒2018年3月31日のことです。

2017年

4月25日（火）第1回理事会・総会 於JICA研究所

5月27日（水）景観まちあるき：浅草界隈（台東区）担当：齊藤

7月10日（水）景観研究会*：今回は研究会の具体的内容の検討会 於JICA研究所

8月 夏休み（景観研究自由参加）or 一泊二日で遠方の町並み見学会など？

9月15日（金）景観研究会 中止

10月13日（金）景観研究会 中止

10月25日（水）第2回理事会 於JICA研究所

11月25日（土）景観まちあるき：11月25日（土）場所は9月10日の研究会にて決定します。

12月14日（木）忘年会 会場は検討中

2018年

*景観研究会：このたび景観セミナーを景観研究会と名称を改め、広く一般に参加者を募ることより、会員の皆様の景観研究を主体にした10人程度の研究会にしようかと考えました。外部からの参加者も自由に参加は出来ますが、講演形式よりも講師を囲み自由に議論できる形態にしたいと思います。

#景観ハンドブック：会報52号（2017年4月号）のブックレビューに『美しい日本の町並み』をご紹介します。文庫本で大変よくできておりますので、是非とも購入して景観まちあるきのハンドブックとしてください。

フィンランド共和国の景観紹介（その5）最終回

NPO法人日本景観フォーラム 理事

フィンランド健康福祉センター・FWBCフィンランドOy東京事務所代表 石見茂夫

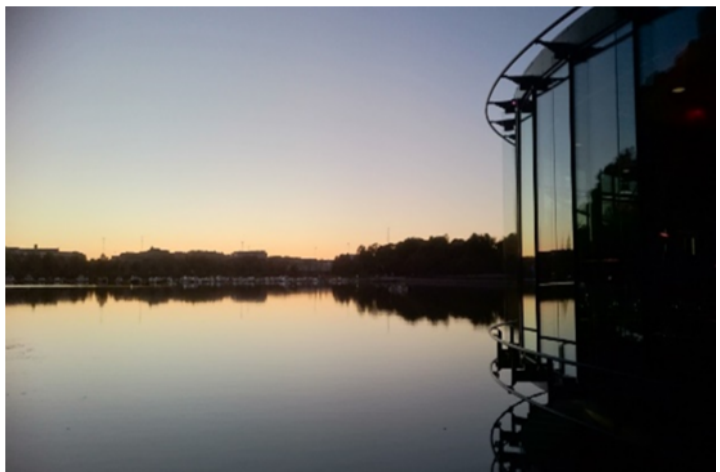
6. フィンランドの景観に調和した施設紹介（ランドスケープ-2）

前回までにコンサートホール、教会やケア施設、病院、建築物を紹介しましたが、今回は北欧デザインに基づいた変わった建築物やオブジェ、モニュメント等を最終回としてご案内します。

A. 湖上のレストラン ヘルシンキ市

ヘルシンキ市街地の北にあるエラインタルハ湾の水面上に2015年春にユニークなレストランが開業しました。北湾を通しフィンランド湾に繋がる立地は潮の干満で水位が変化するため、建設には長い時間の調査と慎重な設計と工事期間を要して建設されました。

レストランへは栈橋状のデッキ通路から入ると大きなガラスのウインドウを通しエラインタルハ湾を一望することが出来ます。サーモンや甲殻類等のシーフードを主とする料理の他に肉料理をフィンランド風に仕立てて提供されています。夏の遅いディナータイムには湾上に沈む夕日を見ながら贅沢な食事ができるレストランとして、地元の人だけでなく観光客にも人気の店になっています。



B. アラビアファクトリー オブジェ（木製） ヘルシンキ市

ヘルシンキ市街地の北へ中央駅前からトラムを利用して1本で行く事ができるアラビア社の工場は、1873年に創業され2016年3月までフィンランドを代表する陶磁器メーカーとして多くの製品が生産されていました。既に工場の大きな窯は閉鎖されましたが、製品のアウトレットショップは今でも営業を続けています。

一般客が利用できるのは1階のショップとカフェ、及びその上の9階には歴代製品やデザインルーツの解説等が展示されたアラビア博物館があります。ショップではアラビア社製の陶磁器の食器類と、ガラス製品のイッタラ社、鋏やナイフ等の刃物類で有名なフィスカルス社、食器やキッチン用品のハックマン社、テキスタイルブランドのフィンレイソン社など、フィンランドを代表するデザインブランドのアウトレット商品や特別な掘り出し物を安く販売しています。

アウトレットショップの近くの広場には、いくつかの木製のオブジェが設置されています。



C. シベリウス公園 オブジェ（金属製） ヘルシンキ市

フィンランドを代表する作曲家であるジャン・シベリウスを記念して、ヘルシンキ中央駅から北西約1.5Kmのトーロ地区に建設された公園です。1967年に女流彫刻家・エイラ・ヒルトウネンによって制作された御影石の台座に乗せられたシベリウスの肖像彫刻と銀色のパイプオルガンのようなユニークな形のステンレスパイプのモニュメントがあります。

これらの彫刻やモニュメントはこの公園のシンボルともいえる役割を果たしています。海岸通りに面した目立たない公園ですが、観光客以外に多くの地域住民が散歩やピクニックで利用されています。ヨットハーバーがある海側には観光客や地元民に人気のカフェ・レガッタがありここから眺める夕日はたいへん美しい。



D. エスプラナリ公園 ヘルシンキ市

エスプラナーディ公園はヘルシンキ・エテラ港のマーケット広場の入口付近からヘルシンキ中央駅に向け東西に伸びるエスプラナーディ通りに挟まれた緑道が細長い公園となっています。南北の両側にはヘルシンキのメインストリートとして買い物客で賑わってます。ベンチや美しい花壇に彩られ、途中の広場にはフィンランドの作家や詩人等の彫像が市民を見守っている。公園内にはお洒落なカフェやライブステージ等も点在し夏季には多くの催し物が開催され多くの市民のオアシスとして利用されています。公園の両側には高さが一定の建築が整然と並び、1階にはイッタラ、マリメッコ、アルテック等のフィンランドを代表するデザインブランドの本店や、大手百貨店のストックマンをはじめ国内外ブランドの店舗やお土産屋、コーヒーショップ等があり多くの観光客が集まっています。



E. 地表に出た岩盤 ヘルシンキ市

フィンランドは国土の大部分が18億年～19億年前の大きな岩盤の上にあります。約1万年前の最後の氷河期で氷河が融ける時に当時の表層土を運び去り大半の表土は新しいものが岩盤の上に乗っています。

岩盤の多くの窪みに溶けた氷河の水が溜まり多くの湖や沼を形成していて、国土の10%近い面積を占めています。湖沼の周辺や海岸線にはこの岩盤を容易に見ることが出来ます。都市部の道路やビル等の建造物はこの岩盤の上に作られていて剥き出しの岩盤が街中にも露出しています。

ヘルシンキの地下鉄も岩盤をくり抜いて作られています。近年、放射能物質の最終処分場として話題になっている「オンカロ」は、この花崗岩の岩盤の地下約500mに作られています。



F. パブトラム ヘルシンキ市

ヘルシンキ市内の交通手段としてトラムは手軽で便利な存在です。市内を縦横無尽に路線網が整備されていて市民のみならず、1日中自由に乗降ができるデイチケットも有り観光客も便利に利用できます。

通常のトラムはグリーンとクリーム色のツートンカラーの車両ですが、夏季には真っ赤に塗られたパブトラムが運行され50分かけ市内を1周しています。車内ではビールの他アルコール類やジュース等を飲むことが出来て市民のみならず観光客にもたいへん人気があります。



<LFJブックレビュー54>

『自然の家』フランク・ロイド・ライト著 富岡義人訳

原著1954年刊 ちくま学芸文庫2010年刊

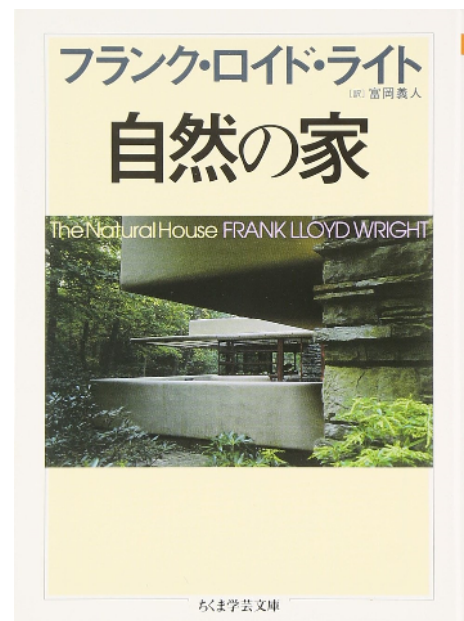
建築家フランク・ロイド・ライト（1867-1959）といえば日本では帝国ホテル、海外ではグックンハイム美術館その他諸々の有名建築を手がけ、ル・コルビュジエ（1885-1965）、ミース・ファン・デル・ローエ（1886-1969）と共に「近代建築の三大巨匠」と呼ばれている。三者ともその年代をみれば、明治・大正・昭和と長期にわたり活躍したわけだが、ライトが夏目漱石・幸田露伴・南方熊楠と同じ生年であったとは驚きである。彼はまさに近代から現代を創造した建築家の代表格であった。

ライトは沢山の著書を残しているがこの『自然の家』は最晩年のものであり、かつ彼の考え方が集約された遺書のようにも感じられる書である。「私は本能から大平原を愛していた。それが、偉大なる単純性を示していたからである。樹々、花々、そして大空は、対比によって鮮明な感動を与える。大平原では、わずかな高みであっても、それ以上に強い効果を醸し出す。」と告白するライトは生地アメリカの大自然がもたらすあらゆる自然素材をいかにして有機的に活用することが出来るかを考えた。そのキーワードは「有機的単純性」である。そして、住まいというものに次のようなコンセプトを与えている。先ず第一に、「住まいとは庇護する覆い」とする。次にその大きさは、「人体寸法（ヒューマン・スケール）こそが建物の真の尺度である」とする。そして、人間が住まう感覚の根底として「水平線を人間生活の地平（安らぎの線）と捉えること」となる。

ライトの脳髓を去来していたのは、近代化が齎す非人間的産業社会をどのように本来の人間性の中に組み立て直すことが出来るか、ということではなかったか。この戦いは間違いなく、欧米・中東・アジア諸国を問わず、現代社会の建築家に継承されていることではないだろうか。

彼の活動の根幹にある7つの信条をここにあげたいと思う。

- ①私は信ずる。家は芸術作品となることによって、単なる住まいを超える存在となる。
- ②私は信ずる。人間は、委員会の一員ではなく、自立した個人となることによって、単なるひとり人間を超える存在となる。
- ③以上二点に基づき、私は信ずる。民主主義は（困難なことではあるが）これまで知られた社会のあり方のなかで最も気高いものである。
- ④私は信ずる。民主主義とは我々の人間性が求める内なる貴族主義の新たなる形である。
- ⑤私は信ずる。およそ成功とは、能力の発揮によって以上の真実を現実へと導くことにある。
- ⑥私は信ずる。以上の真実を混乱と挫折に追い込む仲介やが、いまやあちこちにはびこり、その場しのぎの行いにおぼれている一ゆえにその誤謬が暴かれ、拒否しなければならない。
- ⑦私は真実を信じ、それが我らの有機的なる造物主となることを信ずる。（斉藤全彦）



<LFJブックレビュー55>

『民衆のアメリカ史』 ハワード・ジン著 猿谷要他訳

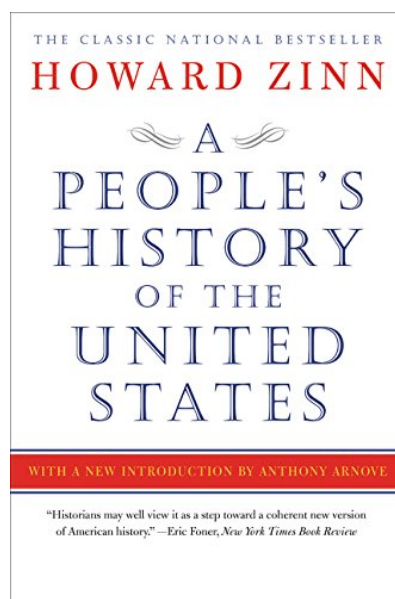
原著1980年刊 ちくま学芸文庫2005年刊

日本人が抱いているアメリカという国のイメージはどのようなものだろうか。戦争を体験した世代と戦後生まれの世代ではその感じ方はかなりの違いがあるにせよ、豊かで、明るく、自由と人権を尊び、民主主義を基本とする国であるという認識は一致するのではないだろうか。今でもアメリカは経済指標のGDP（国内総生産額）では世界一を維持し続ける国であり、その大統領の一挙手一投足は世界中の国々に影響を与え続けている。この現代の21世紀グローバル社会においてアメリカという国家の存在を抜きにしては語れないというのが現実であろう。まさに、このグローバルという社会状況を生み出したのもアメリカ自身であるからである。

この『民衆のアメリカ史』（A People's History of the United States: 1492 – Present）の著者ハワード・ジン（1922–2010）は政治学者、社会評論家、劇作家としても活躍。ジンの思想はマルクス主義、アナキズム、民主社会主義の影響を受け、1960年代から公民権運動や反戦運動の分野で活動してきた。20を超える多数の著書があるジンはボストン大学政治学科の名誉教授で、マサチューセッツ州ボストン近郊のニュートンのオバンデール地区に居住し、2010年1月27日に、心臓発作のため米ロサンゼルス郊外で死去したという。もともと生まれも育ちもニューヨークのブルックリンであり、両親はニューヨーク在住の労働者階級で、ジン自身も大学は仕事を続けながら通ったということである。民衆の観点から自国の歴史を語るというのは自身がその体験を語るようなものではないかと思われる。

この歴史書は徹底的に民衆の観点から書き通したアメリカ歴史学上の初めての歴史書とされている。当然、大統領も現われるが、今までのイメージは完全に覆させられる。リンカーンの奴隷解放宣言はその時代の女性の人権運動が黒人の人権運動に火が付き、奴隷解放策を出さざるを得なかったためだという。即ち、女性の人権運動こそが歴史の中心にあったということになる。また、人権を尊重するというイメージのアメリカという国の成り立ちを語る際、黒人への非人道的対応はもとより、インディアン虐殺撲滅運動が何ら人権擁護もなく当然の如くなされて来たということである。この虐殺撲滅運動が居住地を与えるということで終結した後は、そのエネルギーは南米そして第三諸外国に軍隊を送ることになる。第二次世界大戦後、アメリカは世界中に米軍基地を運営することになるが、それはこのエネルギーのはけ口であり、また富の搾取ルートであるともいえる。

1776年7月4日の独立宣言以降選出された大統領は共和党であれ民主党であれ一環して富裕層の味方につき、従って軍事勢力はその富裕層の持ち物であるが故、大統領は戦争を継続せざるを得ないという構図になる。一般民衆のアメリカ国民は共和・民主以外の軍事費を福祉教育に回してくれる政治家を求めても不可能な社会構造になっているということである。全く暗澹たる思いがしてくるが、真実を語るというこれこそが歴史叙述ではないかと感動する。日本の歴史著述もこのような歴史書が出てくれることを密かに望みたいところだ。（齊藤全彦）



天地玄黄 ⑮「看板」

外に出かければ、あるいは家の窓をみただけでも看板を見つけることは可能なのかもしれない。

どんなタイミングかは人によるだろうが看板は私たちの視界にはいる。

私は外に出かけたときに様々な看板がたくさんありすぎてごちゃごちゃしているなど感じたりてしまった。

看板といっても様々な形や色、大きさなどがある。

昔からある看板については、特に規制がされていないかもしれない。それか、変わらずそのままの可能性もある。

しかし、今は地域または件ごとに看板の規制が存在する。

例えば「屋外広告物条例」のような名前であると思う。

これは、看板についての設置基準を設けたものである。

看板の種類や表示場所によって出せる大きさや高さなどを決めたものがある。

一旦は、こんな条例があるのだと認識をしてほしい。

気になったのならもっと深くまで掘り下げて理解すると楽しいかもしれない。

条例で決められていて、まだまだ問題があるのではないかと私は思っているのだ。

しかし、いまさら看板を撤去しろなどといえるだろうか。

条例に従い看板を立てている、お店のトレードマークかもしれない看板を撤去しろと

お店のこだわりであるかもしれない色を変更や撤去を行えといえるだろうか。

看板があるとないのでは、色々なことに影響を及ぼすだろう。

看板をなくせなどいえない。

しかし、看板が景観に影響を与えているのも事実。

今後どのようにしていけばいいのか、看板についての条例をもっと細かく理解しそれをどのように活用し

変えていくのか、または今ある景観にどのようにすればよいか。

今後の変化を、考える必要がある。



〒150-0031

東京都渋谷区桜丘町14-5-502

TEL : 03(3780)3814

FAX : 03(6379)6681

E-mail : info@keikan-forum.com

URL : <http://www.keikan-forum.org>



Landscape Forum of Japan